



ジョルジ・ディアス名誉教授をしのんで

本学の名誉教授ジョルジ・ディアス先生が、1月25日に本国ポルトガルの自宅にてご逝去されました。享年69歳でした。

ジョルジ・ディアス先生は、昭和7年6月17日にリスボンでお生まれになり、昭和41年7月にリスボン大学文学部をご卒業後、その年の9月にフルブライト財団奨学生としてアメリカのインディアナ州パーデュー大学大学院に進まれ、昭和43年に同大学大学院修士課程を終了されました。その傍ら昭和41年9月より昭和46年までパーデュー大学文学部英語科助手をされ、その後リスボンのペドロ・ヌーネス高等学校で教鞭を執られて後、ポルトガル国政府から教員として派遣されて、昭和47年10月、本学外国語学部教授に着任されました。以後平成11年8月末で退官されるまで26年11ヶ月の間、本学で学部及び、大学院のポルトガル語購読やポルトガル語文学の基礎、ポルトガルとイベリア半島事情などの講義やゼミを担当されました。

日本ポルトガル・ブラジル学会に所属され、日本・ポルトガル関係及び、ポルトガル文化などの研究家として活躍されました。特に日本・ポルトガル交流について数多くの本を出版されました。またご自分で出版された著書を含め、日本・ポルトガル関係、ポルトガル文化、ポルトガル語などに関するポルトガル語文献を本学図書館に数多く寄贈していただきました。

本誌、館報『GAIDAI BIBLIOTHECA』には、昭和57年10月発行の第37号に「ポルトガル・アフリカ・ブラジル総合研究について」

と題する記事を皮切りに、平成11年1月発行の第143号に至るまで数多く投稿していただきました。特に最後に寄稿していただいた「Luís Fróis : notas bibliográficas」は、ルイス・フロイスに関する文献の紹介が主な内容でしたが、連載で通算50回にもなりました。毎回写真入りで、各々の文献を非常に詳しく解説されておられました。

先生は、普段物静かで、あまり多くを語られませんが、非常に芯が強い情熱的な方であると尊敬致しておりました。

生前まだ本学で教鞭を執っておられた時、先生が図書館の第三閲覧室で毎日のようにご自分の研究にひたすら没頭されていたお姿がまるで昨日のこのように思い出されます。先生は、ご逝去されてしまいましたが、何事にも真摯に取り組んでおられるお姿は、私達の臉の奥に鮮明に焼き付いて離れません。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたしますと共に、ご存命中本学図書館に多大なるご支援を賜りましたことに対しまして感謝の意を表明いたします。

(情報サービス課 係長補佐 栄 咲子)

